

# Who is Enryo

東洋大学の創立者 井上 円了とは



東洋大学は明治20(1887)年、井上円了が創立した。私立哲学館によりその歴史が始まりました。井上円了は明治14年、設立間もない東京大学の文学部哲学科に、ただひとりの1年生として入学し、洋の東西を問わず「真理は哲学にあり」と確信します。

そして当時29歳という若さで、「私立哲学館」を設立し、20年にわたる独力経営「私学」「東洋大学」へと発展させたのです。

円了の設立の理念は、「諸学の基礎は哲学にあり」という言葉に象徴され、現在の「知徳兼全」といって、本学の教育目標に受け継がれています。

さて創立者井上円了とはどんな人物だったのでしょうか。数多くの功績の中から代表的なものをいくつかアップしてみました。皆さん一緒に円了探訪をしてみましょう。

## 哲学者として



円了が敬愛した東西の哲学者、「四聖」

東京大学在学中に、「真理は哲学にあり」と確信した円了は、哲学の普及に情熱を注ぎ、日本初の哲学史「哲学要綱」を発表しました。日本を代表する哲学者・西田幾多郎は「青年期に円了の哲学タテ話を読んで影響を受けた」と語っています。著述と教育による哲学の普及は生涯かけた事業でした。

## 「哲学堂公園」の創立者

中野区松丘ににある哲学堂公園は、明治37(1904)年に円了が建立した哲学堂(四聖堂)を起源としています。現在も各キャンパスの図書館等にレプリカとして掲げられている四聖(釈迦・孔子・ソクラテス)を祭るために四聖堂を建設しました。もともと大学の移転用地として考えられた場所ですがその後変更して「心を養う哲学の公園」として設立しました。大学を遠隔した当時48歳の円了は逝去するまでの14年間、1年のうち200日ももの全国巡回講演を続け、その謝礼等を公園の建設費に当てました。

円了の遺言により、毎年11月の第1土曜日には「哲学堂公園で大学行事の哲学堂祭」が行われます。武蔵と四聖人についての講演があり、「ヒュー・紅茶 甘露が般市民の方々にも振舞われます。皆さんも是非一度参加してください。

## 心理学者として

心理学も東京大学在学中に学び普及に努めたもののひとつ。心理摘要、『東洋心理学』などの著作があり、特に「心理療法」の心理学系統史は、日本初の心理学史といわれています。「このほか、心理療法」は日本の精神医学を代表する。森田療法」の成立に大きな影響を与えたといわれています。

## 不思議博士

円了の業績で最も知られているのは、「妖怪学」であるといわれています。明治期日本の大衆が信じた「妖怪」とは迷信・俗信によるものとみられ、妖怪を教化や幽霊とともに不思議現象のひとつと考えました。不思議と感ずる事柄を、古代から江戸時代までの文献から探し、また当時の全国各地の妖怪を調査し「哲学や医学・物理学などの知識で解明しました。お馴染みの「こっくりさん」も研究対象のひとつです。

それらをまとめたのが、「妖怪学講義」(講義録)。この妖怪学は多くの人々の関心を引き、円了は、お化け博士、「妖怪博士」と親しみを込めて呼ばれました。

## 生涯学習の先駆者として



「私立哲学館」は本郷区善町町(現在の文京区湯島)にある麟祥院(とうじょう)の室を教室にしていましたが、次第に学生数が増え手狭になったため、新校舎を立て移転(文京区回向)することにになりました。ところが、完成間近の明治22(1889)年に台風のため倒壊するとう災難に見舞われました。大きな負債を負った円了は、海舟舟からの励ましと援助を受けながら打開策を考えます。そして、全国を巡回して民衆の支援を仰ぐ講演活動を始めたのです。この各地での講演は、中央と地方では生活や考え方に大きな格差のあった時代において、社会教育・生涯学習の面から大きな役割を果たすことになりました。円了は24年間に全国各地、200以上の市町村で講演し、その記録は15冊も。南船北馬車に残されたがあります。皆さんもぜひ、親戚の方々の町にも巡講の足跡があるかもしれません。

## 世界旅行者として

「何でも見てやう」。実際に現地に赴き自分の目で確かめようの精神から、円了は生涯において3回の世界視察を行っています。最初は太平洋を横断して1年間に渡り欧米3国を視察。2回目はインド洋から欧米諸国を8ヶ月間に渡り、半地球を半地球を10ヶ月に渡り視察。3回もひとり旅でした。視察で得られた見聞は「旅の記録」として「欧米 各国政教日記」「西航日録」「南半球五万哩」の著書に残されています。また、全国巡回講演の際には、これらの見聞が直接、民衆へと伝えられました。

